



いしがき守ろう会 殿

愛南町

■事績

愛南町西海地域にある「外泊」地区は、台風や季節風から民家が守られるよう石垣が高く積み上げられています。その景観から石垣の里として「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」、財団法人 古都保存財団の「美しい日本の歴史的風土100選」にも選ばれ、石垣文化の景観地となっています。

外泊の石垣は、幕末に愛南町中泊地区の人口増加により山を切り開いて開拓したのが始まりで、冬場に潮を巻き上げて吹き込む強い季節風から家屋を守るために最高6メートルの高さにもなる石垣が築かれました。石垣を築く作業は「手がえ」といわれる住民の手で行われ、それ以降も台風や地震などの災害による石垣の修復作業は、住民の手によって継承されてきました。生活のために守ってきた石垣ですが、「えひめ町並博」にあわせて、地元住民により2004年に「いしがき守ろう会」が結成され、訪れる観光客に景観を楽しんでもらうために石垣の修復・保全活動を行っています。

外泊地区には1950年代には地区の人口は380人程いましたが、2022年には約30世帯、約50人となり、会のメンバーも現在11人、平均年齢は約70歳となっています。

去年4月に発生した豊後水道地震（愛南町震度6弱）によって10か所で石垣が壊れる被害が発生しましたが、保存会メンバーや大学生ボランティアの協力で修復作業が行われ1カ月半をかけて元の姿に戻しました。先人が築いた石垣の風景を未来に残したい…「いしがき守ろう会」はその姿を守り続けています。